

わが社の
CSR・環境メッセージ 2013
——新市場創造を促す環境技術

NTTが取り組む 生物多様性保全への期待

NTTグループは、自社の強みとするICT技術を生かして、生物多様性保全に多方面から取り組んでいる。企業による生物多様性の保全のコンサルティングに力を入れるサステナビリティプランナーの足立直樹氏は、その内容をどう評価しているのだろうか。



レスポンスアビリティ代表取締役
サステナビリティプランナー
足立直樹氏

Profile

東大大学院修了。理学博士。国立環境研究所を経て
コンサルタントに。企業と生物多様性イニシアティブ
(JBIB)事務局長。国際NGOナチュラル・ステップ・ジャ
パン事務局長。環境経営学会顧問。

「つなぐ」で的確に表現された 多岐にわたる取り組み

企業の生物多様性への取り組みは、本業である事業が生物多様性にどう影響しているか、その関係性を明確にすることがまず重要だと足立氏は話す。

「本業における生物多様性にネガティブな要素はできるだけ小さくし、逆にポジティブな要素は広げていく。この姿勢で注力するのが効果的な保全活動への近道です。NTTは通信事業の技術力、全国にある土地や建物、大きなマンパワーといったリソースを生かしながら、既に多彩な取り組みを実施しています

が、今後も要点を押さえながら幅広い活動を進めていくことを期待しています。さらに、同社が掲げる3つのキーワード(下記参照)は、電話やインターネットなどで「つなぐ」という事業内容ともマッチしており、社員、そして社会との意識共有に役立っていると思います」

海底ケーブル敷設時のサンゴ礁への配慮など、NTTがいち早く取り組み、モデルケースとなってきた活動も多いと足立氏は話す。小動物が道路を安全に渡るための橋「アニマルパスウェイ」の設置を進め、分断された野生生物の生息地をつなぐ活動も先進的だ。

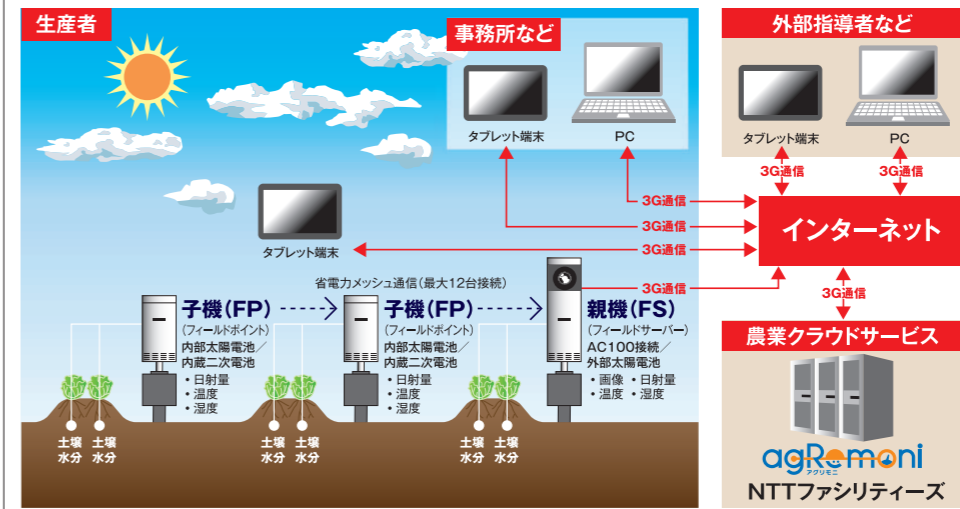
「電柱にケーブルを張るといふNTTの日常的なスキルを生かした好例です。また、植林活動においては樹木を増やすことはもちろん、分断された森林と森林をつなぐことも視野に入れた活動を進めていって欲しいと思います」

さらに足立氏が注目するのは、同社のICTのノウハウを駆使した農業分野における取り組みだ。農園や植物工場、放牧牛の飼育管理などにおいて、モニタリング技術を活用したサービスが既に実証実験の段階に入っている。

ICTサービスを駆使し 環境負荷を低減した農業を

「農業は、実は環境負荷が少ないのです。これを小さくするためには農業や肥料の使用量を抑え、生産物を無駄なく効率的に流通させることが不可欠です。ところが、そのためにはきめ細かな管理が不可欠であり、どうしても人手がかかってしまいます。ICT技術は、その解決に大きな可能性を秘めています」と足

露地におけるモニタリングシステム



NTTファシリティーズのモニタリングシステムのセンサー。ナチュラル・ハーモニー企画推進部流通システム企画長 片岡幸一氏(右)と生産者の不破孝太氏(左)は、データを共有して生産と販売戦略の連携もさらに深めていきたいと話す。

立氏。開発は、まさにこの点で貢献したいということが動機だった。

「第一義的な目的は手間のかかる自然栽培をICTサービスで補うことで環境負荷を低減し、安全な農産物の流通をサポートすること。そして農業などの多大な資材費を抑えて生産者の利益を増やすことです。これらは生物多様性の保全面での貢献も期待されています。さらに、個々の産地で完結している農業のノウハウを広く共有したり、10年とも言われていた人材育成期間を短縮できる可能性もある」(NTTファシリティーズ農業ビジ

ネス推進室 新谷室長)

昨年12月、千葉県八街市の農園に、NTTファシリティーズが開発したモニタリングシステムが導入された。

畑は自然栽培の農産物を販売する株式会社ナチュラル・ハーモニーの契約農場であり、モロヘイヤやサトイモが栽培される予定だ。土中の温度や湿度、畑の映像をPCやスマートフォンで確認できるとあって、生産者である不破孝太氏も大きな期待を寄せる。

「点在する畑を見てまわるだけでも大変な労力なので、作業効率は確実にアッ

プするでしょう。また、経験に頼っていましたが種まきや水の管理なども、数値化されたデータの裏付けを得ることで失敗のリスクが減る。しかも、データベースの充実とともに、その精度は年々高くなっていくことでしょう」(不破氏)

生物多様性保全のソリューションとして、NTTの環境技術に期待したい。A

お問い合わせ先



日本電信電話株式会社 環境推進室
http://www.ntt.co.jp/kankyo/

NTTグループの「つなぐ」取り組み

NTTのサービス・技術・マンパワーを生かして3つの「つなぐ」を実現します。



1 人と生きものをつなぐ
生きものとのつながりを学び、行動を起こすきっかけをつくる取り組み

生物多様性を身近に感じるICTサービスの提供

環境情報ポータルサイト「環境goo」による生物多様性に関する情報発信

生きものとのつながりを身近に感じる社員参加の活動

自社ビルの屋上を利用した養蜂活動や植物栽培の実施



2 暮らしと生きものをつなぐ
生きものにプラスになるようなくらしを実現する取り組み

生物多様性に配慮したくらしを実現するための事業活動の実施

クマゼミが卵を産み間違えないケーブルの設置

くらしの中で生物多様性に関わる負荷削減に貢献するICTサービスの開発・提供

ICTによる生物多様性に配慮した農業・畜産の支援



3 生息地と生きものをつなぐ
生きもの^{すみか}の住処である生息地を守り、つないでいく取り組み

ICT技術によって、生きもの^{すみか}の生息地を守る活動

小動物が道路を「安全に渡る橋」の設置

生息地と生きものをつなぐ社員のマンパワー

社員やその家族による植樹活動

アニマルパスウェイ



道路開発などによって森が分断されると、本来は枝をつたって移動するヤマネやリスが道路に出て、交通事故に遭う危険性が高まる。この問題解決のために、NTT東日本は、2009年から道路によって分断された森をつなぐために電柱とワイヤーで構成した橋「アニマルパスウェイ」の設置に取り組んでいる。NTTならではの技術とノウハウを生かした生物多様性保全活動の例である。

放牧牛の遠隔からの飼育管理実験



牛に取り付けた生体センサーやネットワークカメラを利用することで、広大な放牧地で効率的に牛の飼育ができ、畜産農家の負担軽減につながると期待されている。また、フードマイレージの高い穀物飼料を低減し、牛のし尿の自然処理、遊休農地の荒廃を防ぐなど生物多様性の保全面での貢献も期待している。